

令和 8 年 7 月 22 日

令和 7 年度 特別の教育課程の実施状況等について

学 校 名	管理機関名	設置者の別
柏原市立堅上小学校（外 校）	柏原市教育委員会	公立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
柏原市立堅上小学校	http://www.katakami-e.city.kashiwara.osaka.jp/img/r5_toku_katei.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
柏原市立堅上小学校	http://www.katakami-e.city.kashiwara.osaka.jp/img/file4.pdf	http://www.katakami-e.city.kashiwara.osaka.jp/img/file6.pdf

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

☒ 計画通り実施できている

☐ 一部、計画通り実施できていない

☐ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

☒ 実施している

☐ 実施していない

<特記事項>

3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校は、「恵まれた自然環境を生かし、連続性を重視した一貫教育により、『生きる力』を育てる」という学校目標を掲げている。中学年から取り入れられる外国語の学習、重要視される小学校と中学校の学びの連続性、国際社会で活躍する人材育成等を鑑みると、本校の低学年における英語コミュニケーション科は大いに有意義である。低学年から発言の機会を多く経験することで、集団の中でのコミュニケーション力を育むことができている。こうした経験を積み重ねることで、自身の思いを表現しにくい児童も、生き生きと活動することができている。これは、小学校の時期のみならず、中学進学後の学習にも好影響を及ぼしている。また、こうした経験が幼稚園や中学校も含めた異学年交流の中でも効果を発揮しており、お互いにコミュニケーションを積極的に取ろうとする場面が多く見られる。

一方で、限られた集団の中で6年間を過ごすため、学年によって人数の大小が生じていたり、さまざまな活動の場面で人間関係が固定化されたりするなど、弊害や課題も散見されることがある。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

コミュニケーションを通じた他者理解や、人間関係づくりをねらいとする本校の英語コミュニケーション科は、学校教育法第十八条の一「学校内外の社会生活の経験に基づき、人間相互の関係について、正しい理解と協同、自主及び自律の精神を養うこと。」のめざすところと合致する。

4. 課題の改善のための取組の方向性

コミュニケーションを軸とする学習は、少人数であるため、授業時間中に発言の機会が非常に多くなるというメリットがある一方、児童の意見や考えの多様性に欠けるデメリットがあることも否めない。

加えて、学校の立地状況等に起因する通学の問題もあり、児童数が増えにくい現状がある。こうした従前からある立地的・学習環境的な課題を克服するため、市内の全公立こども園と私立幼稚園に図書館や保健センター等の公共施設に学校案内のチラシを配布し、広く周知していく。また、英語コミュニケーション科や少人数での学習を中心とした、きめ細やかな学習環境や教育支援体制など、堅上小学校の特色を維持しつつ、より魅力ある学校教育活動を実施する。取り組みの一つとして令和8年度より生活科及び総合的な学習において、探求的な学習として「カタカミライ科」を設置し、年間を通じて地域や自然を活かした学びを進めていくこととなった。

今後も引き続き、市教育委員会とも連携しながら児童数を増やす取組みが必要であると考えている。